

「第104回国際女性デー・第56回国際女性デー札幌地区集会」 盛会に開催される！

(3.8国際女性デー全国統一行動 北海道集会)



三宅実行委員長

「3.8国際女性デー」は、1857年にニューヨークで起きた火災で、被服工場や繊維工場で働く女性たちが多く亡くなったことを受け、3月8日に非人間的な労働条件と低賃金に対し抗議行動を起こしたことが起源となっています。その後1910年コペンハーゲンで開催された「第2回国際社会主義婦人会議」で、この日を「国際女性デー」として「世界の女性たちが一致して、毎年行動を起こすこと」が提唱されました。1977年の国連総会では、「国際女性デー」は女性の権利と国際平和のための「国際デー」となり、現在では世界各地で集会等が開催されています。

今年は連合北海道も「戦争・暴力・格差のない社会を」～子どもたちが安心してらせる未来をつくろう！～というテーマのもと、「国際女性デー札幌地区集会実行委員（10団体構成）」の一構成団体として合同で取り組みを進めてきました。

会場となった自治労会館には約260名が集まり、ほぼ満席。用意した資料が足りなくなるほど盛況でしたし、男性の姿も多く見られ、本集

会への関心の深さがうかがえました。

主催者あいさつで、三宅由美実行委員長（ジェンダー平等をすすめる議員の会）は、「札幌地区集会は56年間絶えることなく集会をつなぎ、また次代へとつなぐ責任を感じている。安倍政権の暴走により戦後最大の平和の危機を迎え、今何ができるかを考えながら女性たちの連帯を強め、ともに行動していきましょう」と述べました。

続いて、日本体育大学准教授の清水雅彦氏から「安倍政権は日本を『戦争する国』にするのか？～国家安全保障会議設置法・秘密保護法の制定・集団的自衛権行使解禁論、そして憲法に向かう中で」と題して講演をいただきました。安倍政権のやり方がいかに強引で危険な方向へ導くものかということ、憲法研究者としての様々な角度からの見解も入れつつ熱心に分かり易く話していただきました。「今日の話を広め、職場や地域でも安倍政権を許さない取り組みを進めて欲しい」と締め括られました。

その後、会場の6名から質問・意見が出されましたが、一つひとつ丁寧に解説をいただきました。講演、質疑を通して参加者は興味深く聞き入っていました。



連合北海道

山田女性委員長

最後に連合北海道女性委員会の山田悦子委員長が「すべての人たちが人間らしく尊重され、平等に安心して生きていくこと

ができる社会をめざし、一人ひとりがあらゆる場面で積極的に行動を始めよう」という集会アピールを提案。満場一致で採択され閉会しました。



清水雅彦氏

